

		未来につなげよう！宇智っ子の夢 一心豊かで自ら学ぶ児童の育成一				総合評価	
運営方針		学校教育目標及び「目指す学校像」「目指す児童像」の具現化を図るために、教職員一体となって共通理解のもと、家庭や地域との連携を図りながら、PDCAを意識した教育実践に取り組む。					
平成26年度の成果と課題		平成27年度の重点目標	具体的目標				
<p>○ めあての明確化と意識的なふり返りを大切に授業改革は、児童の主体的な学びにつながった。</p> <p>○ 「生活チェック」の取組を通して、児童が自らの生活をふり返り、生活習慣を改善する意識をもたせることができた。</p> <p>● 家庭学習や家読(うちどく)の定着について、家庭との連携がさらに必要である。</p> <p>● 体育の授業や「遊びキッズ」など体力向上に向けた取組が、家庭でも広がるようにさらに工夫する必要がある。</p>		◎ 主体的に学ぶ力を向上させる。	○ 学習のおもしろさを感じ、進んで学習に取り組むことができる。			A	
		◎ 挨拶の推進とコミュニケーション能力の向上させる。	○ 自ら根気強く家庭学習の習慣や読書習慣を身に付けることができる。				
		◎ 心身の健康増進と運動能力を向上させる。	○ いつでもどこでも気持ちよい挨拶を進んで言うことができる。				
			○ 相手や周りを大切にしながら、自分の意見や思いを適切に伝え合うことができる。				
			○ 自ら進んで基本的な生活習慣を身に付けることができる。				
			○ 進んで体を動かす意欲をもち、体力や運動能力の向上に根気強く取り組むことができる。				
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
主体的に学ぶ力の向上	学習のおもしろさを感じ、進んで学習に取り組むことができる。	国語科の授業改革を通して、言語に関する能力を育て、主体的に学ぶ力を培う。教職員の自己評価で80%の達成率を目指す。	A	A	学習の見直しやめあて・振り返りを大事にした授業づくりを通して、自ら課題を見つけ、意欲的に学習に取り組むようになった。	聴く力を育てる学習、理解を深めるノート指導等の基礎的な学力向上を積み上げると共に、主体的な学びを通して思考・判断・表現力の向上につなげる。	<p>・児童の主体的な学びを大事にした工夫された取組になっている。</p> <p>・全教職員が協力し自信をもって取り組んだ成果が保護者に伝わっている。県国研の公開授業を参観した先生方も高く評価されていた。</p> <p>・保護者と共に、家庭での時間の使い方を意識させる取組を繰り返すことが大切である。</p>
	自ら根気強く家庭学習の習慣や読書習慣を身に付けることができる。	各教科・領域等で言語活動を充実し、思考・判断等の力を育てることを通して、学ぶ楽しさを味わわせる。教職員の自己評価で80%の達成率を目指す。	A		様々な場面で話し合い活動や協働的な学習を取り入れることで、自分の考えを深め、表現する楽しさを味わうことができた。		
		家庭との連携の下に家庭学習の習慣を確実にする。30分(1年)+学年ごとに10分の学習時間を確保できるようにする。児童の自己評価で80%の達成率を目指す。	B		「家庭学習の手引き」を出し、学級懇談や地区別懇談会で保護者へ説明したこともあり、家庭学習が身に付いてきた児童が増えた。しかしまだ、十分確保できていない家庭もある。	家庭での学習や読書の仕方をより具体的に児童・保護者に示す等の工夫をする。	
挨拶の推進とコミュニケーション能力の向上	いつでもどこでも気持ちよい挨拶を進んで言うことができる。	読書貯金に取り組みながら、一人一人の読書の目当てを明確にして家読(うちどく)を推進していく。児童の自己評価で80%の達成率を目指す。	B	A	教職員の率先垂範や生活安全部の指導により、大きな声で進んで挨拶をする児童が増えている。	朝の挨拶や職員室等への入室時の挨拶など、よい習慣ができていく。挨拶することが自然にできる宇智小学校の校風をつくるために、今後も全教職員で意識的に取り組む。	<p>・挨拶運動が、児童の自発的、自主的な活動となるように、様々な考えられ、成果として表れている。</p> <p>・地域と積極的にふれあいの場をもつことが必要である。</p>
	相手や周りを大切にしながら、自分の意見や思いを適切に伝え合うことができる。	挨拶しようとする意識を高めるため、児童会活動や学級会活動など、特別活動を活性化させる。教職員の自己評価で90%の達成率を目指す。	A		児童会の「挨拶運動」を中心に挨拶を大事にする意識が広がり、学級や委員会の活動も活発になっている。		
		道徳を中心として、他の人との関わりや集団や社会との関わりを学ばせる。児童の自己評価で90%の達成率を目指す。	A		年間計画に沿って、毎週の道徳の時間を確保。話し合いの場を多く設け、異学年での交流時間も充実させたことで、コミュニケーション力を伸ばすことができた。	人との関わり方について、授業やそれ以外の場面でも学ぶ機会を多く設ける。また、地域ボランティアの方と連携し、地域と共に取り組んでいく。	
心身の健康増進と運動能力の向上	自ら進んで基本的な生活習慣を身に付けることができる。	地域を学習の場として活用し、地域の人々と交流する中でコミュニケーション能力を高める。児童の自己評価で90%の達成率を目指す。	B	A	「生活チェック」の取組を通して、自分の生活を振り返り生活習慣を改善する意識をもつようになってきたが、テレビやゲームの時間が長い児童の割合が高いなど、繰り返しの指導が必要である。	よりよい生活習慣の定着に向けて、家庭での課題についてきめ細かく指導し、保護者と連携した取組を進める。	<p>・幼い頃からの経験不足から、様々なストレスを抱えている子どもたちに、具体的な対処の仕方を学ばせることは大事である。学校での取組を評価したい。</p> <p>・小学生の時が運動に親しみ、体力向上できる時期である。地域ぐるみで運動できる環境づくりに取り組みたい。学校で行うクラブ等も充実させてほしい。</p>
	進んで体を動かす意欲をもち、体力や運動能力の向上に根気強く取り組むことができる。	ストレスについての正しい知識や対処方法を身につけ、コントロールできる力を育てる。教職員の自己評価で90%の達成率を目指す。	A		地域の方とふれあう機会を設けているが、保護者、教職員から見ると、まだ気軽に挨拶を交わすまでには至っていないと捉えている。		
		基本的な生活習慣を自ら見直すことができるように、生活を振り返る場を繰り返しもたせる。教職員の自己評価で90%の達成率を目指す。	B		外遊びチャレンジや遊びキッズを通して、全員が楽しく遊び、めあてをもって運動できるように工夫し体力の向上に取り組ませる。児童の自己評価で90%の達成率を目指す。	外遊びチャレンジや遊びキッズに積極的に参加し、一人一人が自分のめあてをもち、楽しんで活動できるようになってきたが、全ての児童が進んで外遊びするまでには至っていない。	
		自己の能力に適した課題をもたせたり、記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりすることで運動能力を向上させる。児童の自己評価で90%の達成率を目指す。	B	体育の時間には、体育ファイルを活用し、各自の力に合わせためあてをもたせ、記録の伸びを意識させるよう取り組んできたが、体力の二極化が見られる。			